



六華の心

酒田市立第六中学校
学校だより 第31号
校長 加藤 浩昭
令和6年3月15日

128名 爽やかに学び舎を巣立つ ～第39回卒業証書授与式～

昨日、第39回卒業証書授与式を挙行いたしました。

吹奏楽部の演奏に合わせ、胸を張って会場に入る卒業生入場から式が始まりました。担任による名前呼び上げを受け、一人一人に壇上で卒業証書を授与しました。PTA 会長池田郁雄様より祝辞を賜り、在校生を代表し、川口未瑛さんが卒業生への感謝と伝統を引き継ぎ更に発展させる決意を述べてくれました。卒業生の答辞では、菅心緒さんが3年間の思い出、仲間、保護者、地域の皆様、我々教職員への感謝の言葉、成長を実感できる喜びについて、温かな言葉で語ってくれました。「六中が大好き」、「六中のみんなが大好き」。その言葉を何よりも嬉しく思いました。

最後は合唱です。在校生の「春に」（指揮：斉藤奨さん、伴奏：高橋美慧さん）。感謝の気持ちと決意を感じさせられる素晴らしい合唱でした。そして卒業生が旅立ちの合唱として「夢みたものは…」（指揮：村井侑平さん：アカペラ）と「群青」（指揮：和田皐玖さん、伴奏：池田吏胡さん）の2曲を、思いを込めて堂々と歌い上げました。笑顔があふれ、惜別の涙もあり、最後まで今年の卒業生らしい、清々しく爽やかな卒業証書授与式となりました。校長式辞の一部を裏面に記載いたしました。ご一読いただければと存じます。



新たな学年への決意を持って4月を迎えよう

本日、1、2年生の修了式を行い今年度の全教育課程を終えました。学年を代表し、阿部旺心さん(1-2)と五十嵐永真さん(2-1)に修了証を授与した後、原田未来さん(1-2)と小倉丈人さん(2-1)が1年間の振り返りと新しい学年にかける思いを発表してくれました。

校長からは、それぞれの学年の1年間の頑張りや成長、課題と感ずるところについて述べた後に、次年度に向けて、以下の2点について話をしました。

- 卒業生の姿と重ね合わせ、1年後、2年後自分ではどのような姿で義務教育を終え、新たな道へと進みたいのか、学年の仲間とどのような卒業式を創っていきたいか。そのために4月から自分は何を大切にするのか、心に決め、準備をする年度末・年度始め休業にして欲しい。
- 新年度、六中を更に一歩前進させ、六中生が成長するためのキーワードを今年度の「思考」と「対話」に加え、「+温」と考えていること。今まで以上に温かな関係性を作ることで、「思考」と「対話」が更に深まり、みんながより安心して、お互いの良さを発揮し合える六中になるだろう。修了式の今日から、「思考」と「対話」「+温」を心にとめて生活して欲しい。

4月6日（土）、引き締まった表情で登校する新2、3年生の姿を期待しながら式を終えました。

卒業式の「式辞」より (後半抜粋)

さて、確かな成長の足跡を残し、今、学び舎を巣立つ皆さんへの「はなむけ」として、一冊の本を紹介したいと思えます。

その本の題名は「十七歳のビオトープ」。
作者は清水春木さんです。

この物語の舞台は架空のS高等学校です。

「恋と愛の違いは何だろうか？」

「人の運・不運は何で決まるのか？」

「本当の幸せとは？」

「生きる意味って何だろうか？」

物語には、悩み、自問する四人の高校生が登場します。そんな彼らに語りかけ、寄り添うのは、「平人生」という名前のS高等学校の校務員さんです。自分たちに気づきを促してくれる彼のことを、生徒達は「人生先生」と呼んでいます。

「本当の幸せ」、「生きる意味」。四人が思い悩んでいることは、全て、答えが一つではないものばかりです。

人生先生は決して答えを教えるはくれません。人生先生がつぶやくヒントを頼りに、彼らは自分自身と向き合い、自らと「対話」をし、懸命に「思考」を巡らせます。そしてやがて、自力で答えを見つけていきます。物語を読み進めるにつれ、人生先生は彼らにとって、確固たる自己を確立していくための、一つの「より所」のような存在だと感じます。

卒業生の皆さん。今のあなたには確かな「より所」がありますか。人生先生と出会えていますか。自分にとってそれは家族であったり、友だちであったり、先輩であったり、学校の先生であったり、推しアイドルが「より所」となる存在だという人もいます。でしょう。

また、必ずしも人ではない場合もあるでしょう。一冊の本であったり、一本の映画であったり、自らの経験そのものが、自分にとっての「より所」。「人生先生」だという人もいるかもしれません。

先の見えない時代と言われます。何が起ころうもおかしくない世の中だからこそ、これからは「自分で考え、答えを見つけていく力」が求められます。思い悩んだときに、自分に気づきを与えてくれる存在はとっても貴重です。卒業生の皆さんが、かけがえない「より所」を見つけ、「人生先生」と出会えることを願っています。

しかし、自分には「より所」ができないのではないかと、人生先生」と出会えないのではないかと思っている人はいませんか。

大丈夫です。皆さんはもう既に一つの「より所」を持っています。それが、この第六中学校で三年間大切に育ててきた「六華の心」です。学ぶ心、思いやりの心、素直な心、奉仕の心、耐える心そして感謝の心。みなさんが人生の岐路に立った時には「六華の心」の意味を改めて考えてみてください。そこに必ず未来を開くヒントがあるはずです。そして、この六つの心を磨き続けることこそが、自分の力で答えを導き出すための、確かな力となるはずです。

「吾が夢と希望の在りか求め発つ 結びし絆確かめながら」

冒頭の拙い短歌は、皆さんが卒業記念合唱で歌う「夢見たものは…」、そして「群青」の歌詞を読みながら「はなむけ」と思い詠んだものです。

巣立ちゆく百二十八名のみなさんの未来が 幸せに満ちたものになることを心からお祈りし、それぞれの道で活躍することを願いながら、式辞といたします。

保護者、地域の皆様へ

今年度も本校の教育に対しご理解とご協力をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。今年度も校外での六中生の良い姿をご連絡いただくことが多くありました。そのたびに皆様から支えられて学校は成り立っているのだなという思いを新たにいたしました。1年間のご支援に感謝申し上げます。新年度も本校を、六中生を見守り下さい。ありがとうございました。